

Region Ring®を用いたポイントアプリによるSDGsアクション促進 検証結果(要約版)

背景経緯

三菱総合研究所（以下、MRI）は、大丸有エリアの就業者や来街者へのSDGs普及・活動促進を目的に、2021年度から3年間にわたり、「大丸有SDGs ACT5」でのSDGs活動促進効果の検証を行いました。具体的には、地域課題解決型デジタル地域通貨サービス「Region Ring®」のポイント機能等を活用し、SDGsアクションに対する活動促進効果を検証しました。

行動変容における継続性の効果

- SDGsに対する意識向上や活動の定着化がみられ、エリア全体の活動量が増加

施策検討材料としての、行動履歴データ分析の重要性

- アプリ利用者を活動の量・幅に基づき分類し、ペルソナ分析することでより効果的な施策検討が可能に

SDGsアクションを拡大するための手法の確認

- ポイント施策やお知らせの活用が、より効果的な活動参加への訴求力となり得ることを確認

SDGs参加とウェルビーイングの関係

- SDGsアクションへの参加やアプリ機能の利用は個人のウェルビーイング向上に有用であることを確認

主な検証結果

SDGs活動件数(①+②)



図 | SDGs活動総件数(①+②の経年変化・概数)



図 | アプリデータからみるペルソナ

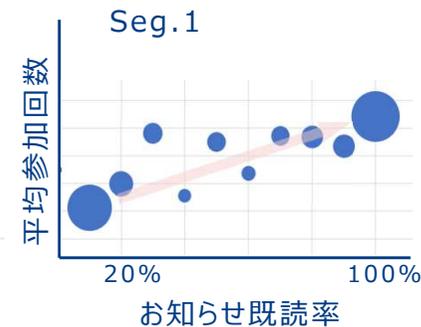


図 | イベント参加へのお知らせの影響

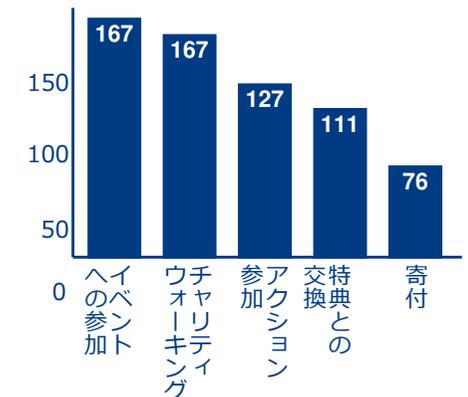


図 | ACT5参加で誰かの役に立ったと感じた場面

引き続きポイント設計やナッジアプローチ等を含む行動変容拡大ロジックの検証を行い、Region Ring®サービスの目的である地域課題を統合的に解決し、ウェルビーイングの向上や持続可能な地域社会の実現を目指します。